

2024 年度通期決算説明会 主な質疑応答

広報・IR部

Q1：戦略事業の 26 年にかけての利益見通しを聞きたい。ライフサイエンスは構造改革の効果で持ち上がるが、エレクトロニクスとパフォーマンスケミカルズは伸びが弱い。EUV 露光用フォトマスク blanks やフッ素化学の市場の伸びをどう見ているか？

A1：24 年から 25 年はライフサイエンスが約 100 億円改善する見通し。エレクトロニクスのうち、半導体関連部材は伸びるが、オプトエレクトロニクス用部材は少し弱いと見ている。パフォーマンスケミカルズは設備増設したプラントは稼働するが、想定比では弱含む見通し。25 年から 26 年は、ライフサイエンスが 100 億円改善する見通し。エレクトロニクスの伸びとパフォーマンスケミカルズの設備稼働率の上昇の両方の貢献で 100 億円の改善を見込む。

Q2：ヨーロッパ中心に景気が停滞した中で、マクロ環境の影響を大きく受けている印象がある。今中期経営計画以降の 2030 年を見据えて、事業ポートフォリオの大きな変更は検討していないのか？

A2：ヨーロッパの経済が既に非常に悪いことは大きな懸念。自動車業界も建設業界も共に良くない。ウクライナ紛争・エネルギーの問題があり、状況が良くなる気配はない。中国は経済が低迷していて、不動産関係は特に悪い。トランプ政権の影響は誰にも分からない。巨大な地域間で悪いことが連鎖している状況と見ている。建築ガラスもオートモーティブもヨーロッパ経済の影響を受けて低迷するという前提で、営業利益の見通しを立てている。エッセンシャルケミカルズは中国景気の低迷が続くことで、特に塩化ビニル樹脂の市況が 26 年まで持ち上がらないと見ている。戦略事業が成長事業であるという軸は変わっていない。ライフサイエンスでは、ベンチャー企業の開発品の件数が落ちているものの、金利の低下とともに戻ってくると見ている。エレクトロニクス・パフォーマンスケミカルズ・ライフサイエンスは、マーケット自体が成長するので、コア事業とは違う。これまでの戦略どおり、戦略事業を伸ばす一方、全体の収益基盤としてコア事業の収益性をあげていく。

Q3：今期の営業利益計画 1500 億円は、コンサバに見た結果か、或いは、事業環境が不透明なことを考慮した結果か？ 1500 億円を下回るリスクはあるか？これを最低ラインとして改善させていくことを考えているか？

A3：ライフサイエンスは 24 年比 100 億円の増益を見込んでいる。昨年、北米のオートモーティブ、国内のエッセンシャルケミカルズでロスコストが発生した。ライフサイエンスの増益分と合わせ、凡そ 200 億円は 24 年比で戻る見込み。普通に進捗すれば、それだけで 1,450 億円は超えてくる。25 年の営業利益計画がコンセンサスより低いという指摘はあると思うが、為替影響が以前より大きくなっている。全ての通貨が円に対し 1%動くと、7 億円影響することから、心配要素ではある。今期の営業利益計画はニュートラルである。業績の下方修正を続けたこともあり、それを避けることは意識している。営業利益計画 1500 億円は、十分達成できる数字である。

Q4：収益構造の改善に向けた取り組みの中に、価格政策「全社で Value-based Pricing へ」と記述がある。これは、戦略事業についての考えなのか、或いは、コモディティであるクロールアルカリ等もこの考え方の中に含まれるか？化学品はボラティリティが大きいですが、価格修正が出来れば業績は高いレベルで安定するか？

A4：既にオートモーティブとディスプレイでは価格政策に取り組んでいる。マテリアルのサプライヤーは毎年値段を下げるのが業界の慣例だった。ディスプレイは 2020 年以降、毎年値段を下げていた。オートモーティブも、ある車種が立ち上がると毎年値段を下げるのが当たり前だった。コロナ禍があり、物価が荒れ、数量が荒れた中で、お客様に対し提供価値に見合った価格をお願いすることに考えを変えてきた。お客様も理解し、値上げを受け入れてくれるところも増えた。建築ガラスとエッセンシャルケミカルズが、所謂コモディティとしての対策が必要と考えている。建築用のガラスでも、以前は市況の悪化で赤字になっていたが、国内でここ数年値上げをしていて業績は以前と比べると安定している。建築ガラスでは、もう少し製品のバリューを上げ

て、利幅を取れるようにしていきたい。東南アジアのエッセンシャルケミカルズでは、よりバリューにあったプライシングに出来ないか現在検討をしている。エッセンシャルケミカルズは赤字には全くなっていないが、業績の振れ幅が大きい。シェアの高さを生かし、業績の平均値を上げ、且つ、業績の振れ幅を小さくすることを検討している。

Q5：ディスプレイ、電子部材の 4Q 業績について教えてください。QonQ では、オプトエレクトロニクス用部材の出荷前倒しにより電子部材の売上が下がったが、電子セグメントの営業利益は増加した。この背景には、ディスプレイの利益改善が相当進んだことがあるか？4Q の液晶ディスプレイ用ガラス基板の出荷数量と価格についてコメントが欲しい。

A5：QonQ の営業利益の増加は、ディスプレイの貢献が大きい。価格もそうだが、数量が伸びた。中国の景気刺激策で TV やスマホに補助金が出ていることが多少追い風となり、思ったより数量は強かった。今期も数量は一定程度強いと見ている。数量の安心感は以前より増している。コストは G11 にフォーカスしていることで下がっている。価格政策も効き、量も出ている。QonQ で数量は一桁半ば増、価格は一桁前半増だった。引き続き、価格政策に取り組んでいく。

Q6：決算資料 P40 によると、ディスプレイの利益は今後 100 億円レベルで増益するよう見える。生産能力は既に 2 割落としたが、まだ営業資産が重い。もう一段、営業資産を落とすには、どうしているのか？

A6：ディスプレイの営業資産は大きいので、ROCE10%に向けて、25 年、26 年の営業利益の持ち上がりも大きくなる。目標達成のストーリーは見えてきている。償却期間が短いので、営業資産はスピーディーに減っていく。キャパシティは出荷数量次第。現在は、想定より出荷数量が出る見込みなので、これ以上のキャパシティの削減は得策ではない。

Q7：25 年の営業利益の見通しは、上期と下期の差が 200 億円ある。上期と下期で、各セグメントでの濃淡をどう見ているのか？ライフサイエンスは 25 年のどこかの四半期で黒字化するか？

A7：上期と下期の差 200 億円は季節性ということになる。足元は欧州の建築ガラスが弱含みしている。上期は弱く、下期型になっている。オートモーティブは上期と下期でフラット。電子は下期が強い。化学品もパフォーマンスケミカルズが下期の方が強い。ライフサイエンスは、受注の取り方によって強くなる時期が変わる。上期に大きく改善しそのまま改善していくことも、下期が上期並みになることも考えられる。25 年のどこかの四半期で黒字化するというのは難しい。

Q8：バイオ医薬品 CDMO は、24 年に受注したものが売上に繋がるだろうが、26 年は損益が黒字化しない。決算スライド P42 によると、米国ボルダー拠点の稼働率が徐々に上昇し、27 年から黒字化の見込みと記載されている。25 年、26 年には黒字化しない背景は何か？

A8：お客様への見積もり提案金額は 24 年に 20 年並になったが、24 年と 20 年ではキャパシティが異なる。キャパシティ増加に見合った稼働増が十分ではない。良い方向には向かっているが、当初申し上げていた 300 億円営業利益を出すことや、ROCE20%にはまだ時間がかかる。ボルダー拠点は、設備改造も行い、本格生産が始まった段階。25 年、26 年にキャパシティが徐々に埋まって、27 年に黒字化する見通し。お客様は付いているが、かなり時間をかけてジョブチェンジをしている。フル稼働になるのに当初計画より時間がかかっている。

Q9：キャピタルアロケーションの中の戦略枠は、24 年から 26 年の 1000 億円から、25 年から 27 年の 2000 億円へ増加している。戦略枠の中身の見方を教えてください。

A9：全体的に投資を絞っており、営業利益が上がっていくので、戦略枠は 2,000 億円に増加する。その枠をどう使うかは、まだ決めていない。様々なオプションは考えられる。

Q10：建築ガラスは、同業他社の拠点停止が目立っているが、AGC は追加で生産調整を行う可能性はあるか？

A10：建築ガラスの欧州は、非常に需要が弱い。当社も 1 窯冷修を行うことで生産調整を実施し、人員削減も行った。稼働

調整と価格政策で乗り切るとというのが現在の判断。更に悪くなれば追加の施策の検討が必要である。

Q11： オートモーティブの 24 年の生産トラブルの状況について、アップデートをお願いしたい。

A11： 北米のオートモーティブで、生産トラブルというよりも出荷にコストがかかってしまい、24 年の業績に大きなインパクトが出てしまった。昨年は二桁億円後半のロスコストが発生したが、今年はほとんど解消する。

Q12： EUV 露光用フォトマスク blanks の 24 年の売上高の伸び率と着地、25 年の伸び率の見通しについて教えてください。また、シェアの考え方をご説明ください。

A12： 24 年の売上高は 23 年から大きく伸びた。今後は同じレベルの伸び率は期待できないが、成長はする。シェアは開示していないが、順調に上がってきたという感覚を持っている。

以 上